

習主席の23人

NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」は歴史の顛末は分かっているがその人間模様には「さも
ありなん」と頷かされるものがある。とりわけ
有力な御家人があらぬ嫌疑をかけられ次々と
粛清されていく描写が秀逸だ。

ドラマは800年前のことであるが、現在進行
中の現実と二重写しになる。お隣の大国のこと
である。国家安全を最優先して独裁を正当化す
る理屈は鎌倉殿を据えた幕府の存続こそが大事
とする意思決定とどこが違うのか。朝廷の権威
は覇権国・米国の存在を連想させる。

習主席は首相候補とも目された政治局員の胡
春華(主席より10歳年下)を異例の降格とした。
胡は主席への忠誠をこれでもかと表していた
が、謀反の疑いありとされたのか、将来の火種
を残さぬようにということか。政治局の23人は
みな力を持ちすぎないように微妙に配置替えを
させられながら、主席に絶対の忠誠を誓う。

10月の党大会では筋書き通りのドラマが展開
されたが、一方で前後に起きた3つの事件から
今の様子をうかがい知ることもできる。

一つは党大会直前、北京市内の陸橋に政府・
指導部批判の横断幕が掲げられたことである。
「独裁国賊習近平を罷免せよ」「PCR検査はい

らない、食うものを
よこせ」など、他の
都市でも公衆トイレ
などで落書きが発見
された。警戒が厳し
い重要会議に合わせ
た「自爆テロ」は



2013年の三中全会前に天安門広場前で発生した
車両突入事件以来のことだ(当局はイスラム武
装勢力によるテロ行為と断定)。これ以外にも
ゼロコロナ政策に伴う苛酷な都市封鎖に対する
不満も表面化している。

二つめは党大会開催中、第3四半期の統計発
表が前日に突然延期されたことである。真相は
不明であるが、政府目標である年間5.5%前後の
成長を下回るのは不可避な状況で、お祝いムード
の党大会期間中に発表することを避けたのでは
ないかとみられている。主席への忖度でピリ
ピリした空気が伝わってくる。

三つめは、党大会閉会時に胡錦濤前総書記が
係員に連れ去られるように途中退席したことであ
る。これもその理由は不明なものの、異様なの
はひな壇に並ぶ者たちが顔色一つ変えず、何も
起きなかったかのようにふるまう姿である。みな
謀反の疑いをかけられることを恐れているのか。

大河ドラマは終了したが、主席のドラマはま
だまだこれからだ。

(アジア研究所教授 遊川和郎)

* 研究所だより *

アジア研究所では、アジアに関する共同研究を
目的に、学内外の専門家から構成される研究プ
ロジェクトを実施しています。定期研究会を通
じて得られた成果は、HPに掲載される予定です。

現在、下記6つの研究会を運営しています。

①『中国・習近平政権の着地点Ⅲ』(代表 遊川和
郎アジア研究所教授：令和2年度～令和4年度)

②『アジアの高度外国人材等の受け入れと日本の取
組み』(代表 九門大士アジア研究所教授：令和2年
度～令和4年度)

③『韓国・新政権の中間評価』(代表 奥田聡アジ

ア研究所教授：令和4年度～令和5年度)

④『インド太平洋における貿易投資政策と経済安
全保障の行方』(代表 久野新本学国際関係学部教
授：令和4年度～令和5年度)

⑤『アジア地域におけるベンチャー企業の成長性
と将来性』(代表 范云涛本学都市創造学部教授：
令和4年度～令和5年度)

⑥『インド太平洋時代のASEAN』(代表 大泉啓一
郎アジア研究所教授：令和4年度～令和5年度)

詳しくは<https://www.asia-u.ac.jp/laboratory/projects/>をご覧ください。また、過去の研
究成果報告は、<https://www.asia-u.ac.jp/laboratory/projectreport/>からダウンロードできます。